

丹比真人の歌一首 たちひのまひと うた

一六〇九番

宇陀の野の うだのの 秋萩しのぎ あきはぎ 鳴く鹿も なしか 妻に恋ふら つまこ  
く 我にはまさじ あれ

丹生女王、大宰帥大伴卿に贈る歌一首 にふのおほきみ ださいのそちおほとものまへつきみ おく うた

一六一〇番

高円の たかまと 秋野の上の あきの うへ なでしこが花 はな うら若み わか  
人のかざしし ひと なでしこが花 はな

笠縫女王の歌一首 かさぬひのおほきみ うた

一六一一番

あしひきの あ 山下とよめ やました 鳴く鹿の なしか 言ともしか こと  
も 我が心夫 あ こころつみ